



学びの可能性 開こう

先進的な学びの取り組みを表彰する「朝日みらい教育賞」。第2回候補団体の募集開始にあたり、前回、「グローバル賞」を受賞した公文国際学園中等部・高等部と「デジタル賞」を受賞したEDUPEDIA（エデュペディア）の近況を報告します。選考委員には賞や活動への期待を聞きました。



第1回受賞団体

【グローバル賞】NPO法人アメリカンスクール・イン・オキナワ、公文国際学園中等部・高等部（日本マイクロソフト社による副賞も受賞）、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【デジタル賞】先生のための教育事典「EDUPEDIA」（エデュペディア）【新聞活用賞】エッセラン高校普通科・環境科学コース



2月に公文国際学園であった模擬国連。横浜市戸塚区、公文国際学園提供



エデュペディアの新年度プロジェクトについて説明を受ける大生たち。東京都千代田区

模擬国連で世界を語らう

各国代表に扮し、世界の課題を議論する「模擬国連」。生徒が自主的に企画、運営して毎年開催し、2月に10回目を迎えた。中1から高2までの希望者や他校の生徒を合わせた約120人が参加した。今大会では違法薬物をテーマに審議。貧困国への配慮も求める決議案が可決された。「時には妥協も交えながら修正案を出し合い、未熟な案をみんなの力でよりよいものへと育てていくべきだ」。討議の過程で出たこんな意見も後

公文国際学園中等部・高等部 グローバル賞

押しし、成案にこぎ着けたという。教諭として運営を見守ってきた米山宏・スイス公文学園日本事務局長は「受賞で実行委員の意欲も高まり、指折りの充実した大会になった」と振り返る。今後はより多くの生徒を対象に模擬国連をアレンジした授業を展開することも考えているという。副実行委員長を務めた高3の新井田華子さんは「様々な国の価値観を知り、審議で異なる見方に触れることが刺激になる」と話す。

指導の悩み 双方向で解決

「先生のための教育事典」と銘打った小中学校の教員向けウェブサービス。教え方や教材など、約2千のコンテンツを掲載する。悩みや疑問を解決するヒントを得たり、逆に自らの提案を投稿したり。デジタルならではの双方向性も売り物だ。ベテラン教員の知恵の継承も狙いとされる。社会人代表の住吉翔太さんによると、受賞をきっかけに、他の団体からの問い合わせが増えたという。手始めに、ネット経由のテレビ電話

先生のための教育事典「EDUPEDIA」 デジタル賞

を活用して日本と他国の子どもたちが交流するマイクロソフト社のプログラムの普及に携わる。先生向けセミナー情報の一覧や、小学校英語の必修化で先生のニーズが高まるオンライン英会話レッスンなど、賞の活動奨励金をあてるといふ。学生代表で早大3年の宇野元気さんは「僕たちの活動が先生を応援し、同時に僕たちも先生から応援してもらっている」と手応えを語る。

世の中を変える原動力に

教育ベンチャーIGS社長・福原正大さん



ソフトバンクの孫正義社長がインド出身のニケシュ・アローラ氏を「後継者候補」に指名して話題になりました。いまは企業経営だけでなく、環境や格差などの問題でも日本だけでは完結しなくなってきており、グローバルな大局観や教養が必要になっています。教育の分野でも、多様な人々と共に新しい解決策を生み出す力や目の前の問題と世界とのつながりを考える視点が重要で、世界では優れた活動が行われています。私が海外で学んだときは、日本人が少ない環境の中で、マイノリティー（少数者）として苦しいことの連続でした。一方で、海外での経験は、多様な立場に寄り添い、世界の中で「自分は何者なのか」を深く考え、自己を知ることにもつながります。朝日みらい教育賞では、小規模でも志を持ち、世の中を変える原動力となる取り組みにも注目したい。賞を通じて「これからの世界を自分たちがつくる」という活動を広げることを願っています。（藤田明人）

自ら課題設定する教育を

DeNA取締役ファウンダー・南場智子さん



注目しているのはベンチャー熱の高まりです。定着させるには、教育が一番のカギになります。日本では、みんなと同じように一つの正解を言い当てるのが大事だと教えられてきました。画一的な教育のもと、安定した大企業に入るという幸せのイメージを追い求めてきました。しかし、正解は一つとは限らず、安定した大企業なんていまや幻想でしかありません。一つの物差しに従い、唯一の答えだと考えるような土壌を壊さないとアントレプレナーシップ（起業家精神）は生まれにくい、大きなうねりにはなりません。人が決めた既定路線の幸せを目指すのではなく、自分で幸せを定義し、自分で課題を設定するような教育が求められています。朝日みらい教育賞では、自ら課題設定して取り組む受賞団体の活動を多くの読者と共有できます。活動について繰り返し考え、議論が豊かになれば、教育に関するフォーラム的な役割も果たせるようになるのではないのでしょうか。（白銀泰）

選考委員から

候補団体 8月20日まで募集

「グローバル賞」「デジタル賞」「新聞活用賞」

朝日みらい教育賞は、三つの部門で未来志向の先進的な活動を表彰します。グローバル化時代に生きるための力を重視した教育に対する「グローバル賞」、情報通信技術（ICT）を利用した学びに対する「デジタル賞」、新聞を活用した授業に対する「新聞活用賞」です。

◇対象 学校やNPO、企業など国内での活動で、3部門とも、次の4点

のいずれかにかかわる取り組みが選考対象です。個人の活動や海外だけを対象とした活動は除きます。昨年に続いての応募も歓迎します。

- ①知識・情報を基盤とした社会への対応
- ②多文化共生への試み
- ③格差・リスク社会に向き合う取り組み（東日本大震災被災地での取り組みや防災教育、貧困による学びの格差解消など）
- ④市民教育の推進（環境、消費者、政治参加意識の育成など）

◇選考方法 書類による1次選考のうえ、1次選考を通過した団体には朝日新聞記者らが直接取材します。最終選考委員は、東大名誉教授・姜尚中さん、DeNA取締役ファウンダー・南場智子さん、東大大学院教授

・本田由紀さん、朝日新聞社の編集・デジタル・教育事業担当役員らに加え、新たに教育ベンチャーIGS社長の福原正大さんが務めます。選考結果は2016年1月に朝日新聞紙上で発表し、受賞団体には活動奨励金50万円を贈ります。

◇応募方法 郵送か電子メールで応募してください。8月20日（木）必着。応募用紙は専用サイト（<http://mana-asa.asahi.com/mirai/>）でダウンロードできます。

◇応募・問い合わせ先 〒104・8011（住所不要）朝日新聞東京本社教育総合本部「朝日みらい教育賞」事務局（03・5540・7870、日曜日を除く午前10時～午後6時）。メールはmirai@asahi.com